

OUR STRATEGY

# フィールドエンジニアリンググループ

# FIELD SERVICE ENGINEERING BUSINESS GROUP

2023年度の振り返り

- ▶ 保守サービスに関する堅調な需要を受けて、受注・売上・営業利益のいずれも過去最高を更新
- ▶ 社会システムセグメント等の堅調な需要を背景に、将来にわたるメンテナンスストックが順調に拡大
- ▶ 半導体製造装置関連事業は成長ペースを維持

2024年度以降の展開

持続可能なインフラを支えるため、人財育成や課題解決力強化を推進



お客様の「お困りごと」を解決する提案型のコミュニケーション

- ▶ お客様のBCP意識の向上や保守要員不足、自然災害の多発化、設備延命化ニーズ等により、今後も安定的な需要増加を想定
- ▶ 安定的な設備稼働のみならず、事業活動における環境負荷低減や省人化対策などの「お困りごと」を解決する提案能力の深化
- ▶ VR等を活用した高度かつ効率的な教育プログラムによる、技術員の早期育成・スキルアップへの注力

“ 持続可能なインフラを支える  
メンテナンスの需要に対応し、  
明電グループの収益基盤を支えています ”

専務執行役員  
フィールドエンジニアリンググループ | 望月 達樹

事業環境

機会

- 生産年齢人口の減少等を背景としたメーカーの手による保守サービスの需要拡大
- 企業、自治体等のBCP対応強化による予防保全意識の高まり
- DX推進に伴うスマート保安のニーズ拡大
- 半導体市場の伸長に伴う関連保守サービスの商機の増加

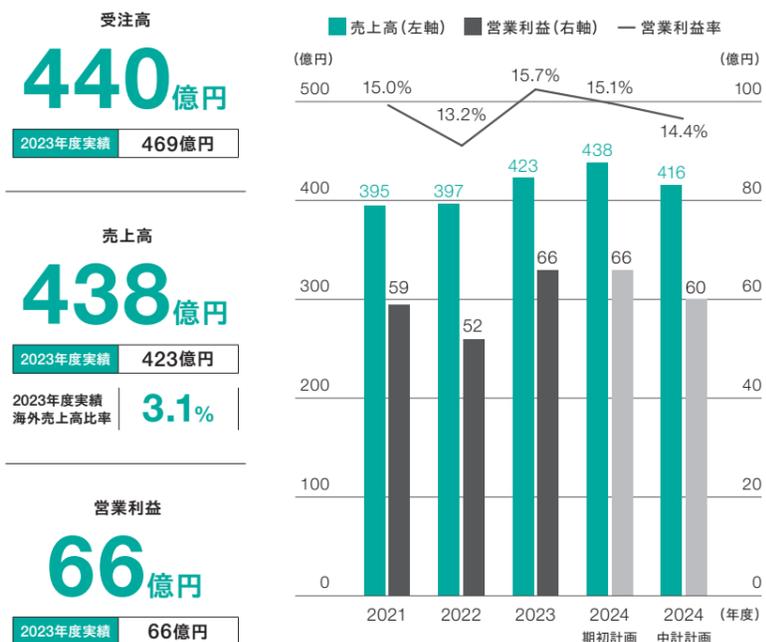
リスク

- 部材コストや協力会社の人件費等の上昇
- 技術サービス員の確保
- 期待寿命が長い製品の補修に要する部材の一部レガシー化

強み

- 製品納入から保守サービスまで一貫したライフサイクルエンジニアリング
- 豊富なメンテナンスストックと保守サービスデータ
- お客様の環境課題の解決等にも資する提案力、技術力及び充実した保守サービス体制

2024年度経営目標(期初時点)



TOPICS

「第1回高専起業家サミット」表彰式の様子

バーチャルで学び、リアルで挑む。  
明電舎の次世代エンジニア育成



IMPACT 定量的な社会インパクト

明電グループがメンテナンスに従事する現場数

▶ 約 **8,000** か所

人財の獲得と定着が多く企業にとって深刻な課題である現在、明電グループの中でも人財が担う比重がとりわけ大きいフィールドエンジニアリンググループでは、採用・育成強化に重点を置いて取り組んでいます。

2024年3月には、持続可能な社会づくりを担う若い技術者の挑戦を支援する目的で、起業を目指す高専生が一堂に会してビジネスプランの発表を行う「第1回高専起業家サミット」に協賛しました。今回は起業アイデア50テーマの中から、香川高等専門学校のビジネスプラン「医療DX 患者の急変を数時間以上前に検出する呼吸計測システム」に、明電エンジニアリング賞を贈呈しました。将来を支える若い技術者たちとの交流により、会社と事業に関する理解を深めてもらい、人財獲得にもつなげていきます。

また、人財の早期育成・技術スキルの向上を目指して

2020年に沼津事業所内に開設した技術研修センター「Manabi-ya」は、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)システムを活用した体験型の研修施設となっており、毎年20名程度、累計100名弱の技術者が、最新の研修プログラムを効率よく学び、ベテラン社員のノウハウも身に付けつつ、活躍の場を求めて、現場に巣立っています。

今後も、優秀な人財の獲得・育成を通じて、社会に良質な保守・メンテナンスサービスを提供することで、よりよい社会の実現のために貢献していきます。

明電舎  
人事統括本部 人事企画部 人財育成課

内田 幸伸

